史料紹介

久保正康「上京往返手帳」について

久保　トミ子

解説

㈠　筆者久保正康と本帳執筆の次第

私の婚家久保家は、代々宇佐宮の神官で、姓は田部氏、宇佐郡柳ケ浦に住み、本帳の執筆者久保伊勢守正康は、亡夫久保正純の祖父にあたり、本書は祖父正康が三十九才、即ち慶応四年（一八六八）、大宮司宮成正矩公の名代として、御一新の大業の成就と皇運悠久祈願の御祓箱を朝廷に献上のための、上京往返の道中記、並に鳥羽伏見の長州藩の戦死者の墓に、その冥福を祈り、その姓名等を記し、又伊勢神宮への参詣の次第、尚御年若く皇位を践まれた明治天皇の堺住吉社への御行幸を拝した等の記事である。

㈡　内容の要約

出発から帰着までの内容を私なりにまとめると、次の項目のように要約される。内容の詳細については本文を一読されたい。

㈠献上物及依頼されし書状等

㈡出発――長洲港より京都（船旅）

㈢上京中の動静

㈣伊勢神宮参詣の次第

㈤帰路――（船路）

㈥烏丸侍従への依頼状――宇佐宮大宮司より

㈦　往返の日程及碇泊・港津・旅宿

日記により往復の日程と碇泊の港湾・旅宿を辿ってみると次の様になる。

慶応四年（一八六八）三月十五日に長洲を出発して、帰着し

たのが、閏四月八日で約五十日の旅程であるが、当時の瀬戸内海交通路・交通機関・里程・所要時間・天象が詳細に記録され、又運行中思わぬ事件に遭遇するなど、黎明期の日本には、こうした克服すべき無数の前近代的諸問題が横たわっていたことも痛感される。次に往復路の日程・碇宿泊地名を記して参考に供したい。

▲出発(出発から到着まで十二日間)

・長洲(豊前三月十五日)→・真玉沖(豊後十六日)→・姫島(〃)→・管(下)松(周防十七日)→・上関(〃)→・室津(十九日)→・大崎嶋(芸州)→・鞆(備後二十日)→・牛窓(備前二十三日)→・播磨灘(二十四日)→・亀嶋(二十五日)→・大坂川口(二十六日)

▲滞京(約十日間)

▲伊勢参宮(往復約十二日間)

・大坂(四月六日)→・京都(〃)→・大津(近江四月八日)→・草津(〃九日)→・水口(〃)→・土山(〃十一日)→・坂ノ下(〃)→・関(〃)→・椋本(伊勢)→・窪田(〃)→・雪津?(〃十日)→・松坂(〃十一日)→・小俣浜(〃)→・中川原端(〃)→・伊勢神宮(〃)→・二見浦(〃)→・二本松(伊勢十四日)→・伊勢地(伊賀)→・三本松(大和十六日)→・大野村(〃)→・初瀬観音(〃)→・丹波市(播津四月二十日)→・奈良(〃)→住崎?(〃)→・大坂(十七日)→・安治川口(〃)→・堺(明治天皇行幸)

▼帰路(約十五日間)

・大坂川口(四月二十四日)→・兵庫(播津)→・明石(〃)→・播磨灘(播磨)→・多渡津(讃岐二十五日)→・金比羅宮(〃二十六日)→?麦嶋(二十九日)→・真鍋島(備後閏四月朔日)(網網事件)→・鞆(四月二日)→?めはる崎(三日)→・御(四月四日)手洗(伊予)→・斉灘(〃)→・興居島(伊予四月五日)→・家室(〃)→?内里島(〃)→・大島郡(四月六日)(大島)→・上関(周防四月七日)→・高田(豊後四月八日)→・佐々礼(〃)→・妙満寺(〃)→・帰着

※祖父の通った箇所を現在の地図で調べたものである。

・印＝現地図にあり

?印＝不明又は未詳地

(表紙)

慶応四年

上京往返手帳

辰三月

久保氏

○以下本文

横帳(慶応四年)

三月八日　晴

一、宇佐宮成家江　此出候事

一、御祓六箱臺共　御渡相成候事

一、御状白木箱入　烏丸侍従様　御内
牧　掃部様　宇佐宮
桂　靱負様　宮成大宮司
到津前新大宮司

一、御年礼帳　壱冊

献　上

塩鶴　一羽

料金　弐百疋

金子　壱兩

己上

呈上

金　弐百疋

己上

京都正親町様御裏ニ而

一、御状壱封　宇佐宮
御母上様　宮成前大宮司
御祖母様　宮成大宮司
御中上金子入

一、同壱封　於正親町御殿
宮成御前様　村

一、同壱封　牧　掃部様　宮成大宮司

桂　靱負様　到津前新大宮司

一、同壱封　右御両所様　田染河内守

一、同壱封　右御両人様　樋田陸奥守

一、同壱封　右御両人様　百楽丹波守
小田肥前守
並松嘉寿枝

一、書状七封

此　訳

宮成豊美様　正親町様御裏ニ而

金崎内記様　河野様御内

上田右兵衛大尉様　百万遍屋敷内ニ而

肝付十郎様　二本松薩州御邸内

森　隼人様　麩屋町西ニ入町

魚屋庄兵衛様　安嶋漆橋北詰

近江屋源吾様　中御霊社内ニ而

〆

大麻献上覚

一、禁裏御所

一、皇后御所

一、准后御方

一、執奏家

〆

別　段

一、有栖川中務卿宮
一、同　帥　宮
〆　六箱
中奉書堅紙

上

執(カ)

奏　蒙
宣下候様、一社一同、奉願候、此旨宣預御披露候、以上、
慶応四年三月　　到津前新大宮司
宇佐　公誼
宮成大宮司
宇佐　公矩

烏丸侍従様
御雑掌中

一、三月十五日、天気能乗船、夕、長洲(豊前)下迄一同見送り呉、夜九ツ時(夜十二時)引取、
一、同十六日、出帆之処、東北ニ付、漸(豊後)真玉沖迄間きり碇泊、夜九ツ頃(夜十二時)ゟ嵐ニ而行、姫島(豊後)辺ニ而夜明しの事、
一、同十七日、東南風ニ而沖合間切居候処、夕七ツ半頃(午後五時)大風ニ相成、漸、中国(周防)管松といふ入海ニ、暮六ツ頃(夕方六時)碇泊滞船大風雨ニ相成候事、尤、中ノ関(周防)、上ノ関(周防)之間由也、
一、同日夕方ゟ雨止、夜四ツ時(夜十時)頃ゟ天気能、同所……
○截断欠
一、同十九日、室津(周防)改所ニ而、少々手間取、五ツ半頃(朝九時)、同所出帆、順風ニ而同夜、芸州北大崎島といふ処江七ツ頃(午後四時)着碇泊、凡三拾里、
一、同廿日、曇天ニ付、大崎こぎ出し、昼後ゟ西風山嵐烈敷、夜五ツ時(夜八時)漸、鞆(備後)・瀬戸口迄着船之処、汐悪敷懸り、同夜九ツ頃(夜十二時)湊江入進滞船、
一、同廿一日、天気之処、風東北ニ而・出帆六ケ敷、四ツ頃(朝十時)ゟ西風ニ相成出帆、同夜五ツ時(夜八時)頃同地沖合迄、凡拾四・五里参り候処、汐悪敷風もなし、○以下截断欠
○廿二日欠損
いたし候処、昼九ツ半頃(午後一時)ゟ雨ニ相成、同夜通し雨ふり候事、
一、同廿四日、天気能未明出帆之処、風悪敷間切、漸播磨(播州)灘

弐三里行、夜九ツ頃(夜十二時)汐合悪敷風止沖懸り九八里、

一、同廿五日、曇、風悪敷候得共、沖合之義ニ付、未明帆を巻、間切、亀嶋ニ而水ヲ取、櫓を押、暮六ツ頃(夕方六時)漸二見湊江着、滞船之事、尤播磨灘之内九拾里、

一、同廿六日、曇、二見湊早朝出帆、順風ニ而、今七ツ半時(午後五時)大坂川口江着、夫ゟ川登暮六ツ時(夕方六時)、壱番ト申処江着船之事、今日道法九廿里、

一、同廿七日、雨天、市中見物、西御堂迄、社家・公家様方・両本願寺御門跡方、色々御参内見物、夕刻ゟ夜舟ニ而上京之様之処、少々速く相成、当時社家其外御上下夕舟無数、間ニ合不申、見合滞留之事、

一、同廿八日、曇、八ツ半頃(午後三時)迄市中見物、天満天満宮参詣、夫ゟ御城見物、大手筋ニ而昼飯仕舞、刀屋与助と申もの方江、長左エ門殿ゟ大小仕立頼有之未ダ出来不申候処、右金物同家ゟ外方江、相頼候処、歩入いたし逃去、何分埒明不申、尤母伜両人、跡ニ残り居候間、其もの召呼、一応沙汰いたし呉候様、精々相頼候ニ付、召呼早々差返方申談し、夫ゟ夜舟通り、□帰乗込候処、大雨ニ相成夜通降続、淀御城近辺ニ而夜明候事、

一、同廿九日、五ツ半頃(午前九時)伏見着、近江屋小兵衛ト申宿屋江上陸、酒肴相頼、四ツ過(朝十時)仕舞頃ゟ雨止、夫ゟ上京、六条通桑野屋源兵衛ト申、妙満寺殿御旅宿江立寄、荷物相渡候処、教覚寺・蓮光寺殿方江も御目に懸り、夫ゟ中御霊近江屋源吾方江、八ツ半頃(午後三時)着旅宿之事、

一、同卅日、晴、朝飯後、木具屋増次郎案内ニ而、烏丸御殿江出仕、桂勒負殿面会、種々咄之上書状預、不残神宮次第書共差出候処、得斗拝見之上、御応対可仕間、暫時旅宿へ引取呉候様被申、引取、正親町様御裏ニ而、宮成御家様御送りもの書状共、為持遣し候処、昼後罷出呉候様、御沙汰之趣ニ付、昼後罷出候処、御茶菓子等被下、其上色々御内咄有之、凡壱時半程ニ而旅宿へ引取候事、

一、四月朔日、晴、烏丸御殿・桂靱負殿ゟ書状到来左之通、

上書　烏丸殿

久保伊勢守様　桂靱負

太政官御役所江御同道可申候間、次上下御着用ニ而、唯今早々烏丸殿江御出殿可成候、以上、

四月朔日

右之通申来候間、早速罷出候処、宇佐大宮司殿、其外ゟ書

状之趣、種〻御内談有之、追〻連判ニ相成、同御殿ニ而、昼飯被出、夫ゟ太政官江罷出候処、一六御休日ニ而、御用弁不相成、八ツ時(午後二時)引取、明二日四ツ時(朝十時)、一同罷出候様被申候、尤今般執奏御差止相成候得共、牧・桂・当宇佐宮ゟ御差合ニ付開封之上、一同太政官江罷出、御下知ニ随ひ可申様御内談ニ而、同道罷出候様相成候事、

一、四月二日、晴・早朝ゟ烏丸御殿江罷出、太政官江差出候届書相認、桂殿一同罷出候処、最早御引取成、間合不申、尤願届共巳刻(朝十時)ゟ未刻(午後二時)迄を限候ニ付、纔の間合ニ付、空敷引取候事、

一、同三日曇・四ツ時(朝十時)ゟ烏丸殿江罷出、夫ゟ桂氏一同、太政官弁事御役所へ罷出候処、願書之分者、尤ニ付、写相添差出候様、烏丸殿江者執奏被止候得共、宇佐宮ニ而不相書是迄之通と被拝、差当来之伜ニ致置と申場合ニも至間敷、宇佐宮ゟ書状到来之始末書取、右差出候段、御沙汰相成候間、早速町家迄引取、届書写、尚又烏丸殿ゟ次第書相認、出赴処、最早御引相成、八ツ時(午後二時)過空敷引取、夫ゟ寺町通り見物買物等罷出、今日柏丸七兵衛尋参、夕刻廻入候、種〻申談事いたし候事、

一、同四日、昨夜ゟ大雨早朝、髪月代風呂入ニ罷出候処、烏丸殿桂殿ゟ左之通申参り有之候、

御早く御出頭相成候様二、御たのみ待入候、巳上、

四月四日　　桂　靱負

久保伊勢守様

右之通申参有之候ニ付、早速罷出候処、直ニ同道ニ而、太政官弁事御役所へ罷出右届書類差出候処、奥之方江召呼、委細聞届候間、烏丸殿ゟ差出候書、取候、執奏相離(カ)候上ハ、御聞届相成候ニ付、届ニ不及、届書御下相成候、宇佐宮者明日献上相済候バ、其段口上書を以、届出可申旨、御沙汰之事、尤届書左之通、

口上覚

此度之事件ニ付

皇運悠久之御祈、於

八幡宇佐宮神前一七ヶ日之間、一社一同執行仕、満座ニ付御祓

禁裏御所江為献上、参京仕候、仍御届申上候、献上相済帰宮之義者、尚其節可申上候、

以上

四月四日

豊前国
宇佐宮

宮成大宮司名代
久保伊勢守

弁　事

御役所

此度

禁裏御所江御祓献上ニ付、当宮社司
宮成大宮司為名代、上京仕旅宿
寺町通広小路上ル
中御霊社内
近江屋
増次郎

右之所江滞留罷在候、仍而御届申上候、

以上

四月四日　　豊前国
宇佐宮
久保伊勢守

右弐通差出相済、九ツ(正午)時頃引取、昼後、烏丸御殿江罷出、御祓献上向、万端是迄之振合、桂殿江承り合候事、

一、同五日、曇・朝五ツ半(朝九時)頃、木具屋源平案内ニ而、禁裏御所並大宮御所江御祓献上江参内いたし候処、御所ニ而者、御奏者宗岡式部大亟と申人、御取次ニ而、献上相済候、大宮御所ニ而、御奏者、北庭(カ)道太郎ト申仁ニ而有之候事、

一、献上臺改札左之通

改書　豊前国宇佐明神八幡宮大宮司
宇佐公矩

手札　豊前国宇佐宮
久保伊勢守

右両御所江献上ニ付而者、当時勢ニ而、執奏御止相成、太政官江者、御届置候ニ付、執奏無之候間、口上書を以参内いたし候方可然由、桂殿ゟ被申、左之通相認差出候処、極〻都合宜有之候、

口上覚

此度之事件、乍恐
御親征被為在候折柄ニ付、当宮一社一同於

八幡宮神前

皇運悠久、賊徒退治之御祈、一七ケ日執行仕候、右満座ニ付、御祓献上仕候、以上、

豊前国
宇佐宮社司名代
久保伊勢守

辰四月

右之通ニ而

御所向首尾克相済候間、直ゝ太政官弁事御役所へ御届ニ罷出、差出候書付左之通

口上覚

此度之事件ニ付、

皇運悠久之御祈、一社一同、於

八幡宮神前、一七ケ日之間執行仕候、御祓献上無滞相済、一社之面目難有仕合奉存候、仍御礼申上候、就而者明六日、御当地発足帰宮仕候、此段御届申上候、以上

辰四月五日　豊前国宇佐宮
大宮司名代
久保伊勢守

弁事

御役所

右御届相済帰り者、烏丸御殿江も立寄、何事も都合克相済候段、御届申上、昼九ツ(正午)迄旅宿へ引取、昼飯後ゟ寺町通西六条本願寺へ参詣、長洲妙満寺殿旅宿へ相尋、森精荷物大坂迄持越呉到着申談・夫より一郎方江も立寄、近江屋太兵衛送りものも相届、市中見物、暮方旅宿へ引取候事、

一、四月六日・曇・朝飯後、正親町様御裏江罷出、明後八日出立、伊勢宮江参詣、夫ゟ大坂通帰宮之積ニ付、御用向有之候ハバ、旅宿又者六条桑名屋源平方ニ而も、小生名当御出被下候ハバ、早速相届可申由申上置、帰宿後ゟ諸方名所古跡等江、参詣見物ニ罷出候者、□上御霊社・上加茂・下加茂・百万遍・銀閣寺ニ而御庭拝見料弐百廿文、真如堂ニ参詣、馬場先茶屋ニ而昼休、夫ゟ黒谷・吉田・南禅寺・知恩院御座敷、一両日之内、聖護院宮様御返相成候得者、拝見ト申義難出来間、見物いたし候様、被申候、尤見料当人ニ而四百文差出見物いたし候、誠珍敷候、夫ゟ弘臺寺・清水・西大谷・大仏・三拾三間堂、暮方漸伏見稲荷江着候処、追ゝ雨天ニ相成候江共、成丈京都旅宿迄引取候様、羽倉摂津守方江頼込、勧請相済候得共、何分夜ニ入、雨者降て知

人も無之、道者壱里半余りも有之ニ付、同家江相頼旅宿世話いたし呉、同町大坂屋利平ト申もの方江止宿之事、その外数々参詣所多、荒増記置、

一、同七日、曇、伏見出立、南禅寺江参詣、案内相頼、当正月、淀・伏見ニ而戦争長藩死去之者、神ニ祭り在之趣ニ付、墓所へ参詣いたし牌名写し候、左之通、尤正月二日ゟ戦間死、又者追〻死去之分、

正月四日

裏

片山金治茂定墓　二十五歳　四月四日
三浦龍輔孝之墓　二十七歳　仝二日
尾川猪三郎直忠　同四日　二十二歳
徳山藩　福島男也源正盛　同六日　二十八歳
正月五日戦淀ニ而死　久保直吉源義房　〃十日　二十歳
右同前　小林隼太源義光　〃十二歳
正月五日戦後ニ而死　竹田二郎藤原道忠　正月十日　二十六歳
原田久米之進義固　〃四日　三十三歳
相木園四郎師継　〃三日　二十五歳
宇佐川熊太郎平忠次　〃三日　二十歳
後藤深造藤原則正　〃三日　二十六歳
原川金造源保邦　〃四日　二十歳
山下翠藤原貞政　〃四日　二十歳
入江隼人源重忠　〃四日　二十三歳
河村梅吉多〻良正義　〃四日　二十壱歳
品川喜市源義冑　〃四日
植田滝之助清信
黒瀬千代太郎藤原頼通　〃五日　三十歳
河上四郎源道正　〃五日　二十四歳
松原善人源義明　〃五日　二十二歳
伊藤京次橘秀寄　〃五日　十九歳
石川厚狭介正臣　〃五日　二十六歳
十川三郎大江良久　〃五日　二十三歳
吉田道之助源良久　〃五日　二十四歳
上山讃五郎源忠之　〃五日　二十壱歳
五日戦淀ニ而　岡崎高槌藤原守正　〃五日　三十歳
藤村英次郎足穂舎彦　〃五日　二十壱歳
石川伊三郎義忠　〃六日　二十九歳
戸沢竹次郎政勝　〃六日　二十九歳
有田彦兵衛忠光　正月六日　二十三歳

五日戦淀ニ而死　〃二十四日
後石川和三郎勝之　〃二十三歳
前入江勝馬一義　〃六日
佐伯鉄之進　十九歳
正月五日戦淀ニ而死　〃二十四日
大村清次郎義忠　二十二歳

右東福寺處山拾丁余登り、山ノ頭、壹反余切開平地ニいたし墓所ニ仕立、石燈籠壹對、外常夜燈三ツ、参詣之者、日〻群集綜香無絶、参詣、木綿幡五六十本、精忠神靈ト悉相認有之、茶屋者壱ケ所、誠ニ珍敷事也、夫ゟ、

天子之御廟所泉涌寺御門内迄参詣、又〻上御□堂・大仏・其外参詣所多候得共、荒増、四ツ半頃(午前十一時)中御靈江帰着、昼後ゟハ別而大遍ニ候得共、明日出立之積ニ付、烏丸御殿江も桂氏ゟ書狀其外、宇佐江口上写有之、旁参殿八ツ頃(午後二時)ゟ引取、買物も有之、市中江所々尋廻、夕刻旅宿へ引取候事、

一、四月八日、烏丸御殿江差出候塩鶴料其外、今朝持参桂氏江差出、請取書取、其上今日出立之段申入、暇乞いたし、四ツ頃(朝十時)旅宿へ引取支度之上、昼飯仕舞出立、北野天満宮参詣、金閣寺江も行、御庭其外見物、料銭百拾文宛、夫ゟ又〻京都三條橋通り、大津へ止宿之積、道筋蟬丸之廟所・三井寺共参詣、夕方近江屋八郎兵衛ト申その方旅宿之事、今日三條大橋ゟ道法三里、

一、同九日、晴、大津ゟ乗舟貳里半拾丁之処、五ツ半時(朝九時)草津江着、上陸昼九ツ(正午)時、石部蛭子屋八郎兵衛ト申もの方ニ而昼支度、草津ゟ貳里半拾四丁、同所ゟ三里半八丁水口(江州)へ八ツ半(午後三時)頃着、少々足痛有之止宿之積リニ候、同所ニ而土山迄戻り馬有之、相進候間馬に乗り、暮前土山江着、近江屋利平ト申もの方江止宿、水口ゟ土山迄貳里半八丁、今日里数都合拾三里、

一、同十日、曇、朝五ツ時(朝八時)土山出立、尤足痛ニ付、馬相雇坂ノ下迄貳里半、同所ゟ関迄戻り馬乗、壹里半六丁、同所ゟ椋本(伊勢)迄戻り馬乗貳里、同所ゟ窪田(伊勢)迄戻リ馬ニ乗貳里、同所ゟ陸ニ而津(伊勢)迄壹里半、止宿之積之処、筑後中将様奥方同宿御泊ニ而、宿屋一軒も明無之所ニ而、相頼見候得共、貸不申候間、無致方夕方ゟ雪津といふ端宿迄貳里、暮五ツ半時(午後九時)着、入口魚屋江止宿、都合拾壱里半余、

一、同十一日、曇、朝五ツ時(朝八時)雪津出立、松坂(伊勢)江貳里、同所ゟ馬ニ乗、齋宮浪花屋佐助と申もの方ニ而昼休、小俣濱、中川原端ニ而四里半余リ、夫ゟ中川原参詣(カ)、銭(カ)屋久左エ門方江止宿之事、

一、同十二日、曇、四ツ時(朝十時)ゟ晴、朝茶漬仕舞居候処江、桧村八郎太夫殿ゟ使参リ候間、一同罷出候処、朝飯出、夫ゟ両大神宮江参詣いたし、九ツ半頃(午後一時)帰着昼飯、夕刻迄休足、夕膳部出止宿之事、

一、同十三日、晴・朝飯膳部出、四ツ頃(午前十時)桧村太夫宮ゟ帰リ宜相済、九ツ過(正午)中川原桑屋江引取、昼飯仕舞二見江参詣、七ツ半時(午後五時)同所へ引取止宿之事、

一、同十四日、曇、朝五ツ時(午前八時)中川原出立、六兵衛茶屋貳里、山田屋七兵衛と申茶屋ニ而昼支度、夫ゟ二本松(伊勢)、角屋半左衛門ト申宿屋江七ツ半頃(午後五時)着止宿、今日道法九里、此内六里ハ五十丁道也、

一、同十五日、晴、朝五ツ頃(朝八時)二本松出立、伊勢(伊賀)地紅葉屋武右エ門と申もの方ニ而昼休、七ツ半頃(午後五時)三本ぬしや慶分(カ)と申もの方へ着止宿、今日拾壱里、

一、四月十六日、晴、朝六ツ半頃(午前七時)三本松(大和)出立、八丁余ニ而大野村(大和)江、弘法大師一夜の作ト申高巌へ、ミ路く尊彫付、御丈ケ五丈四寸有之参詣、夫ゟ初瀬観音西国八番札所江参詣、み王竹田屋甚七方ニ而昼休、凡六里、昼後ゟ馬ニ乗、丹波市(大和)ニ而乗替、七ツ半時(夕方五時)奈良松竹屋弥平治方江、着止宿之事、

一、同十七日、晴、早朝ゟ案内を頼、名所古跡不残参詣、四ツ時(朝十時)前奈良出立、貳里余ニ而昼休、八ツ半頃(午後三時)住崎と申処ゟ乗船、七ツ半頃(午後五時)ニ條御城下ゟ上陸、夕前安治川□丁目船迄帰着、今日道法八里余之内、三里半五十丁道也、伊勢ゟ大坂迄道法、都合三拾八里余也、

一、同十八日、晴、早朝ゟ市中買物見物之事、

一、同十九日、晴、早朝ゟ市中見物、稲荷芝居江参リ候事、

一、同二十日、晴、今朝六ツ半頃(朝七時)、天皇堺住吉社江御幸行被遊候ニ付、早朝ゟ御拝江参リ候処、公卿方、諸大名御供之衆誠ニ夥敷、御拝之人々群集、古今未曽有之事ニ候、御拝相済、夫ゟ市中見物買物、稲荷近辺ニ而昼休、八ツ半頃(午後三時)舟ニ帰着之事、

一、同廿一日、雨天、柏丸七兵衛ゟ被相招、七ツ頃(午後四時)ゟ傳法屋迄上陸、夕ゟ大雨ニ付、同家江止宿、夜通し大雨之事、

一、同廿二日、雨天、昼時分ゟ雨止、滞舟之事、

一、同廿三日、曇、早朝ゟ舟下り□番江懸リ滞舟之事

一、同廿四日、晴、三夜月出、後舟下大坂川口出帆、順風ニ而四ツ時(朝十時)兵庫湊口ニ而風止、八ツ時頃(午後二時)順風ニ相成、帆を

巻、夕刻明石湊近来候へ共、風悪敷其儘夜通播磨灘先江、帆儘ニ而夜明頃迄通リ抜候事、

一、同廿五日、曇、昨日ゟ走リ続、今暮方、多度津(讃岐)湊江着、舟碇泊、尤七ツ半(午後五時)ゟ少ゝ宛雨ふり候事、

一、同廿六日、曇、朝飯後ゟ舟頭健平・吉右エ門都合四人ニ而、金毘羅(讃岐)宮江参詣、同所売屋ニ而昼休、八ツ半(午後三時)頃舟迄帰着、七ツ時(午後四時)頃ゟ大雨ニ而滞舟、

一、同廿七日、雨天、四ツ時(朝十時)頃ゟ少し小降ニ相成候得共、西風ニ付滞舟

一、同廿八日、晴、西風烈敷、同湊滞舟、

一、同廿九日、晴、早朝嵐ニ而、同所出帆、凡三里計、麦嶋といふ處迄参、西風汐合悪敷、冲中江碇を入、七ツ頃(午後四時)ゟ汐合宜敷ニ付、帆を巻少ゝ間切懸候処、西風殊之外烈敷相成、元之麦嶋ゟ申処江戻リ、山之間ニ碇泊之事、

一、閏四月朔日、天気能朝五ツ頃(朝八時)ゟ同所出帆、凡壱里計も間切、西風汐合悪敷、沖中江碇を入、八ツ頃(午後二時)ゟ帆を巻、壱里斗間切参候処、鯛網に碇を懸、相損し候ニ付、漁人共不残口ゝニ厳敷被申候へば、種ゝ相断候得共、聞入不申、尤真鍋島(備後)ゟ申所之もの共ニ而、凡壹里計、鍋嶋迄連行候間、健平・吉兵衛舟頭一同上陸、庄屋宗左エ門ゟ申その方江頼出、相断候得共、済行不申、健平・安兵衛者引取、吉左エ門義者、人質同様同嶋江止宿之事、

一、同二日、極早朝、健平・安兵衛両人金子取集、漸五両壱分丈ケ持参、上陸色ゝ示談之上、網方五両、庄屋江百疋差出相済、五ツ半(午前九時)頃舟江一同帰リ、其儘同嶋出帆、風悪敷七ツ時(午後四時)頃、鞆湊江着、一同上陸、髪月代風呂ニ入、夫ゟ祇園社江参詣いたし候事、

一、閏四月三日、曇、朝五ツ時(朝八時)鞆湊出帆之処、西風ニ而瀬戸内間切、七ツ頃少ゝ宛雨降、夕刻漸めはる崎ゟいふ処江懸リ、暮方ゟ大雨ニ相成、同所江碇泊、凡拾貳三里余参候事。

一、同四日、昨夜ゟ大雨降続候処、夜明迄ニ而雨止候ニ付、五ツ時(朝八磨)頃同所出帆、貳里斗参候処、汐合悪敷、西南風ニ相成候へバ、汐懸リ、九ツ過(正午)ゟ引汐ニ帆を上ケ間切居候処、西風烈敷相成、八ツ半(午後三前)頃御手洗湊江入津、滞舟之事、

一、同五日、晴、明七ツ頃(午前四時)御手洗湊出帆之処、風少も無之、以津き(今)灘汐ニ流れ、昼九ツ時(正午)頃、五五嶋(興居)ゟいふ所ニ而、風汐悪敷懸リ、八ツ時(午後二時)頃引汐ニ流れ、成丈家室迄参リ度由ニ而、櫓を押候得共、何分汐風悪敷、暮方漸内里嶋近く、家

室ゟ弐里斗前沖懸り碇泊、凡拾五里参候事、

一、同六日、曇、明七ツ頃（午前四時）、引汐ニ相成、帆を巻汐ニ流れ、朝六ツ半頃（朝七時）、家室前迄参り候江共、少も風無之、櫓を押四ツ半頃（午前十一時）、凡八里余大嶋郡大端ゟ云処江汐懸、七ツ時頃（午後四時）、矢張西風ニ直候得共、引汐ニ付、間切流、暮六ツ半頃（夕七時）上ノ関江着、凡三里余、都合拾壱里参候事、

一、同七日、晴、明八ツ半頃（午前三時）上ノ関（周防）出帆、引汐流れ、追々南西、北西風等々時〻相変、四ツ時頃（夜十時）ゟ東南風少々宛吹、順風能夜九ツ時頃（夜十二時）過、高田沖合迄参り候処、風少も無之、引汐ニ相成碇泊之事、

一、同八日、早朝ゟ櫓を押候得共、汐合悪敷、漸佐々礼浦迄参り、入津に相成候付、妙満寺一同漁舟ゟ上陸、妙満寺江立寄候処、酒肴出昼時ゟ帰り懸ケ、氏神宮江参詣、九ツ半（午後一時）頃帰宿之事、

一筆致啓上候、時下春和

侍従様、益御安泰被遊御座、恐悦之至ニ奉存候、次ニ各様、

弥御堅固被成御勤、珍重奉存候、然者、

王政復古、朝政御一新之折柄、賊徒御親征被為在候段　国家之御大事、一社之輩、深恐察仕候ニ付

皇運悠久之御祈、一七日之間、一社一同執行仕候ニ付、右、大麻献上仕度、久保伊勢守守護為致、参京之間、可然御奏達、献上向、万端宣御執成之程、奉頼候、右之段、可得貴意如斯御座候、恐惶謹言、

三月七日　　到津前新大宮司

宮成　大宮司

牧　掃部様

桂　靱負様